

令和3年度 第2回 宇都宮市総合教育会議 議事録

- 1 日時 令和4年3月25日(金) 午後4時～午後5時
- 2 場所 宇都宮市役所14階 14A会議室
- 3 出席者
(構成員) 佐藤市長
小堀教育長, 伊藤委員, 大森委員, 檜山委員, 小野委員
(事務局) 青木教育次長, 鈴木学校教育担当次長, 坂井教育企画課長,
板倉総務担当主幹, 口川学校教育課長, 金子教育センター所長,
古内教育企画課長補佐, 高久教育企画課企画G係長,
佐藤教育企画課企画G総括
- 4 傍聴者 なし
- 5 議題 令和4年度教育委員会基本方針(案)について
- 6 議事の内容
- (1) 開会
青木教育次長 ただいまから, 令和3年度第2回宇都宮市総合教育会議を開会いたします。
す。よろしく願いいたします。
- (2) あいさつ
青木教育次長 はじめに, 佐藤市長からごあいさつをお願いいたします。
- 佐藤市長あいさつ
- 青木教育次長 ありがとうございます。
続きまして, 小堀教育長からごあいさつをお願いいたします。
- 小堀教育長あいさつ
- 青木教育次長 ありがとうございます。
ここからの議事の進行につきましては, 市長にお願いしたいと思います。
佐藤市長, よろしく願いします。
- (3) 議事
佐藤市長 それでは, 議事に入ります。
議事(1)「令和4年度教育委員会基本方針(案)について」事務局から説明をお願いします。
- 令和4年度教育委員会基本方針案について事務局(総務担当主幹)説明
- 佐藤市長 ありがとうございます。SDGsについても触れていただきましたが,
本市も未来都市を目指しております。スーパースマートシティもSDGs

の17のゴールを意識したつくりとなっており、スーパースマートシティが形成されていけばおのずとSDGsの目標を達成できるものとなっています。教育委員会の目標は、「質の高い教育をみんなに」を合言葉とし、それぞれの個別方針を策定していただいておりますが、大変素晴らしいと感じています。

これから日本は人口が減り、生産力や消費、税収が落ち、大変厳しい状況になると思います。そういう中において、各国の在り方が変わり、資源や食料、エネルギーの争奪戦になっていくと思います。日本を含む先進国の人口が減少する一方で、いわゆる途上国と言われた国は人口が増えており、アフリカ大陸のナイジェリアなどは2100年には7億人くらいになると言われています。それは医療が発展したことや衛生環境が良くなってきたこと、一般の人も以前より収入が増え市販の薬を買えるようになったことで、病気を治すことができるようになったためと言われています。人口が増えているので食料の争奪戦が始まっており、日本は競り負けの状態にあります。そのような時代を生き抜くためには、人間力や教育が重要になると思います。教育はしっかりと子どもたちに与えていかなければならないし、まちづくりも人づくりと言われているので、市が永続的に発展していくためには、次の世代の子どもたちのため、そして今を生きる子どもたちのために、教育をしっかりと動かしていかなければならないと思います。

それでは、教育委員会の皆様からも教育委員会基本方針にかかる思いや考えなど、それぞれご意見を伺いたいと思います。

伊藤委員

私からは「基本方針(1) 地域とともにある学校づくりの推進と学校運営体制の強化」についてお話させていただきます。義務教育9年間において、『心豊かでたくましい宮っ子育成』のため、コロナ禍においても日々情熱のある先生方が教育現場で奮闘してくださっている姿を見ていると、感謝の気持ちでいっぱいです。そのような中においても、子どもたちはとても柔軟で、黙食などになっても生き生きと過ごしてくれていると思います。これまでも、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校行事や地域活動など様々なことが縮小・中止を余儀なくされてきました。ここ1～2年の間で体験できる機会がなかったことは、地域の一員としても悔やまれます。with コロナとなったときに、縮小や中止されてきたものをこれからどうやって再建していくかが非常に重要なことであると思います。縮小されたことでシンプルになり、結果的によかったこともあります。それが全てではないということ意識して子どもを育ててもらいたいと思います。大人も子どももとても忙しく過ごす現代社会の中で守っていかなければならないもの、集うことの楽しさ、集うからこそ得られる感情や思い、やさしさなどをしっかりと見極めていってほしいと思います。地域の中の学校として「魅力ある学校づくり地域協議会」や「小中一貫教育・地域学校園」の活動がより活発に、また、地域に根差したものになってもらうことを願っております。

コロナ禍において様々な影響が出ている中で、子どもたちが環境に柔軟に対応してくれていることはすごくうれしいことだと思いつつも、学校で抱える問題も増えてきているのではないかと思います。そのような中においても、先生方は日々対応してくださっていると思いますが、様々な問題がある子どもへの対応に追われることが多いと聞いております。教育のエキスパートである先生方が団結して未来の宮っ子の教育に全身全霊を傾け、自信と誇りをもって教壇に立ち、「宇都宮市の教員で良かった！」と思ってもらえるような教育の場の提供と教員の育成に努めていただけたらと思います。そのためにも、まずは現場の声を聞いていただいて、未来の子どもたちを育てる現場を守ってほしいと思います。

大森委員

私からは「基本方針(4) 特別な支援が必要な児童生徒への教育の推進」についてお話をさせていただきます。十数年ほど前にインクルーシブ教育という言葉が初めて耳にしました。具体的には、通常学級で障がいの有無に関わらず子どもに最適な学びを保障する、共に学び合うという内容だったと記憶しております。当時はそれが環境整備のことと捉えておりましたが、令和4年度の基本方針の中では、「児童生徒一人ひとりが自信と意欲を持てるインクルーシブ教育システムの構築」というように明言されておりますので、特別な支援が必要な子どもたちが自信と意欲を育んでいくようなシステムの構築を今後進めていければと思っております。合理的な配慮の考えを取り入れた「障害者差別解消法」も施行され、学校においても合理的配慮の提供が義務化されることとなっておりますので、先生方のお力添えをいただきながら子どもたちを育んでいければとも考えております。一口に障がいといっても、身体や知的、精神、発達における様々な障がい種があり、また、特別な支援が必要という点では、民族的、宗教的、言語的な障壁を抱える子どもたちも増えております。実際に国の「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」では、そのような児童生徒が十数年前よりも倍増しているという結果も示されております。

GIGA スクール構想で頻出した「個別最適な学び」の充実は、障がいの有無や国籍、言語などを超えて学び合う可能性を秘めていますが、一方で子どもたちが孤独な学びに陥らない、そして子どもたちを家庭でサポートする保護者の負担になりにくいといった工夫も進めていく必要があるのではないかと思います。また、個の発達に応じた適切な教材の開発も重要になってくると思います。多言語で利用できるアプリの学校現場への活用など、最新の機材を取り入れることも重要であります。特別な支援が必要な児童生徒における個別最適な学び、協働的な学び、そして、SDGs の視点でもあります誰一人取り残さない学びとは何か、私たち自身、そして子どもたちにも問いかけながら、より一層考えていければと思っております。

檜山委員

私からは「基本方針(6) 教育に関わる貧困対策の充実」についてお話をさせていただきます。「共働き子育てしやすい街ランキング 2021」において、宇都宮市が総合編 2 位を獲得したことは素晴らしいことだと思います。し

かし、経済的貧困は約8人に1人いるということは、宇都宮市の18歳未満の人口が約8万人おりますので、約1万人位の子どもが経済的貧困の中にいるということになります。また、そのひとつ前の段階になります関係性の貧困については約3人に1人で、こちらは将来経済的貧困になりやすいとされています。様々な支援制度を充実させていくことは、今後も継続していくべきだと考えていますが、関係性の貧困が親から子へ連鎖しやすいということは、その親も関係性の貧困の中で育った可能性があると思われると思います。子ども自身が小さければ小さいほど、そういった支援制度を知る機会は少ないと思われることから、親が支援制度を活用することをためらわないような雰囲気づくりが必要だと思います。

そしてもう一つ、ヤングケアラー支援は喫緊の課題とっております。自分の親であったり、兄弟姉妹の面倒を見るというのはある程度は当然のことと思いますが、それ以上の負担を強いられている子どもたちは実際におります。SDGsにおける国際社会共通の目標の一つである「質の高い教育をみんなに」をゴールとするならば、スタートに立つことも妨げられているとっていいのかもしれませんが。大人がやるべきことのしわ寄せが、子どもたちに行ってしまう現状を改善するために、行政として、関係機関相互のより一層踏み込んだ連携が必要だと思っております。

小野委員

私からは「基本方針(2) 成長の基盤となる知・徳・体と未来を生き抜く力の育成」についてお話させていただきます。先日、市町村教育委員会オンライン協議会の「教育の情報化」をテーマとした分科会に参加させていただきました。その際、他市町村の教育委員の方から、環境問題や貧富の格差問題など、誰も正解が分からない課題が増える現代においては、正解を覚える教育ではなく、正解を見つけ出す方法を学ぶ教育が大切なのではないか、そのような新しい教育はデジタルを活用してこそ可能となるのではないかという意見が出ました。その時、私自身はまだどういものかというところまではたどり着かなかったのですが、未来を生き抜く力というところと、関係性の強いテーマだと思いました。

自分がこれまで関わってきた活動でも、課題解決型リーダーから価値創造型リーダーへの転換という課題をテーマに取り組んできたことが沢山あり、デジタルを活用した教育がリーダーの転換の鍵になると強く感じたところでもあります。0から1を生み出す創造性に溢れた新しい時代のリーダーが次々と生まれるまちになって欲しいと思っております。デジタルを活用した全く新しい価値創造型リーダーを作る教育方法について、具体的なアイデアとしては、世界中の人たちと対話できるものを利用することやケーススタディを今までできなかった映像などを活用するなどということもあるかと思いますが、これからも考え続けていきたいと思っております。一方で、栃木県民は前に出ることを怖れて横並びになりたがるという傾向が他県に比べて強いのではないかと思います。これを学校教育の力で、リーダーに対するあこがれや、前に出ることにより積極的になる意識を喚起する方向に向けていけないかと常々考えております。

小堀教育長

私からは全体的な話をさせていただきます。先ほど市長からも、まちづくりは人づくりであるというお話をいただきました。その人づくりを推進するのが、教育行政の大きな役割であると思っております。現在、人づくりを推進するための様々な環境や施設、設備、システム、計画などが充実してきていると思いますので、今後はそういったものを活かしながら実践する段階にきているのではないかと考えております。そのようなことを踏まえまして、今回の「教育委員会基本方針」に基づき、事務局職員と来年度1年間汗をかいていきたいと思っております。

佐藤市長

ありがとうございました。皆様から様々なご意見をいただきました。私からも意見や感想を申し上げたいと思います。

伊藤委員から話がありました、郷土愛なども踏まえた学校行事・活動の継承ということですが、学校の先生方には学校現場で、コロナ禍においても、例えば運動会などは学年ごとに競技時間を分けたり、演目等を工夫して時間の短縮を図って実施したり、また、修学旅行なども行き先を変更したり、日程を短くしたりということで頑張っていたいただきました。地域の方々などもそれに呼応して学校の消毒などを手伝っていただいて、通常通りにはいかないけれども、やめること、止めることなく進めるために一生懸命努力していただいたのだと思います。「宇都宮学」というものを創設いたしました。宇都宮に根付いている諦めないという気持ちが、継承すべき行事や活動をこれからも継続していくことにつながるのだと思います。そしてそういうものが大切であると感じました。また、教職員の働き方改革がありますが、先ほど教育長からも話がありました。ICT化を推進しまして、保護者との連絡も電話の連絡がなくなり、1年間で2,400時間くらいが短縮され、その時間が子どもたちに向き合う時間や自分の仕事をする時間に費やすことができるようになったわけですから、評価システムも含めてICTを活用して便利になるものを行政としても教育委員会とともに考えていきたいと思っております。そのほか、先生の働き方改革の中に、先生を褒めるということがあったほうがいいと思います。何においても先生の批判ばかりする人もいますが、結果的には自分に帰ってくるようになります。かつて警察に対してもそうでしたが、特にそういうところが酷すぎるのではないかと思います。今日も新聞に出ていましたが、問題のある先生も確かにいますが、だからといってすべての先生がそうであるという風潮がずっと続いてしまっているの、素晴らしいことをした先生を評価する、褒めるということを外部がやってあげることはいいことであると思っております。

大森委員からはインクルーシブ教育についての話がありました。私は市長になったころから、エレベーターや多目的トイレの設置ということがよく言われるようになり、実際現場も見させていただいたところでもあります。今回、GIGAスクール構想で1人1台の端末が貸与されたところでもあります。そういう端末もうまく使えば協動的な学びなどにつながっていくと思っておりますので、決して1人1台で孤立していくのではなく、そのような

ことを意識することと、やはり保護者の方が逐一関与すると本末転倒になってしまうと思うので、学校現場でしっかり教えていただくことが大切ではないかと思います。また、学び方の在り方ですが、端末でのAIを使ったドリル学習で、AIがどんどん学習してその子どもに合った計算や漢字のドリルを与えてくれることにより、まさに一人ひとりに先生がついているようなオーダーメイドの授業が可能であると思いますので、うまく使っていればと思いますし、障がいのある方にもそういうものを駆使して、学びを提供できればいいのではないかと思います。

檜山委員からの子どもの貧困については、経済的貧困、そして関係性の貧困があり、これまで関係性の貧困があまり問われてこなかったということがありますが、ここに来て問われるようになってきました。調査の結果、本市では8人に1人ということでしたが、関係性の貧困については、親の生活に影響を受けている子どもが、経済的貧困につながってってしまうということが見受けられます。そういう中において、市といたしましては、本年度「親と子どもの居場所づくり」を2か所でモデル的に実施し、来年度からは5か所に増やしてまいります。成果も上がっておりまして、特に親がほかの親を見て、子どものしつけや子どもにどのようなことを言ったらいいのか、朝起きてご飯を食べさせて学校に行かせるものだ、帰ってきたらおかえりなさいやただいまといった挨拶をするものだとか、毎日お風呂に入る、毎日着替えるなどといったことを覚える場となっています。その親御さんもおそらく自分が親に教わっていないので、この居場所が子どもだけの居場所ではなく親と子どもというところがポイントであります。子ども食堂や青少年の居場所づくりも進めています。檜山委員からもありましたとおり、今回、市でもコーディネートする仕組みを作らせていただきました。商工会議所や青少年育成市民会議などに入っただいて、外から寄付等をいただける場合には、善意銀行というものをつくり、それを經由して子ども食堂などにお金を配分させていただくこととしました。子ども食堂のアンケート調査によりますと、食堂の運営を続けていくことが経済的に苦しく、それが回数に現れ、月に3回であったのが2回、週に2回であったのが1回などという現状になっているようですので、そういったところに支援をすることができます。このコーディネート機能を使わないと、どこにどのような支援をしていいのかわからないし、不公平さが出てしまうということですので、これからこのコーディネート機能が相当期待されるのではないかと思います。昨日の新聞の一面に出ていたかと思いますが、ロータリークラブの70周年の記念事業ということで、第1号として300万円の寄付をいただいたところでもあります。そういうことがこれから益々実施されればいいと思います。ヤングケアラーについても、自分がヤングケアラーだということを自覚していない子がほとんどであると聞いていますので、周知啓発用のリーフレットを作成いたしまして、公共施設や福祉事業者へ配布いたしました。また、全庁的なヤングケアラーへの対応として対策委員会というものを昨年8月に設置いたしました。このようなことに着手いたしまして、教育現場だけではなく、福祉や医療等

の関係機関においても理解促進を図っていただき、連携の強化を図ってまいりたいと思います。また、令和4年度には、子ども未来課に指導主事の課長補佐1名を配置いたしまして、ヤングケアラーをはじめとする子どもを取り巻く様々な課題に対して、教育委員会や学校と連携した企画立案や関係課との協議調整などを行い、取組を推進してまいりたいと思います。今後ともヤングケアラーや子どもの貧困などへの対応を、行政として一致団結して進めてまいりたいと思います。

小野委員からはリーダーが次々と育つまちについての話がありました。宇都宮ジュニア未来議会というものを現在市で行っておりますが、もとは青年会議所が行っていました。市議会の議場を使わせてほしいということで、私が市長になる前に当時の議長にお願いし、使わせてもらったのが初めてで、次の年から行政にやってもらったと思います。そういう取組が、まさしくリーダーとしての自覚を持ってもらうということにつながると考えています。また、市の附属機関等の公募の委員さんもこれまでは20歳以上という年齢要件を持っていましたが、これも平成29年度から廃止をいたしまして、青少年に参画していただける環境づくりを行っています。また、リーダーになるためにはリーダーはかっこよくなければいけないし、どんどん人と交わって自分を磨いていかなければならないでしょうし、経験を積まなければ言っていることも絵空事で説得力がないということになるでしょうから、そういう場の提供というものも考えていかなければならないと思います。リーダーの能力育成の中には生徒会活動などもありますし、市が毎年市立の中学校生徒25名を平和親善大使として広島に派遣している事業もあります。こういうことをいろいろな部門で作っていくことができれば、リーダー養成につながっていくと思います。小野委員から栃木県民は表にあまり出たがらない、目立ちたくないという指摘がありました。そういう土壌が出来上がっているのではないかと思います。我々大人がどんどん改善して、喜んで前に出られるようになっていけばいいと思います。私からの意見は以上となりますが、皆様からも自由に意見をいただければと思います。

小野委員

私自身出身は栃木県ではありませんが、子どもがいるので、その様子も見ながら考えていきたいと思っています。

佐藤市長

昔読んだ本で「失敗の本質」というものがありますが、やはりこれまでの歴史の中で失敗してきた事例というのはたくさんあって、共通するものはリーダーが大きな声を出す、大きな声で押さえつけ、様々なデータはすべて自分の都合のいいように解釈する。それが日本の歴史の中で常に失敗してきたものだそうです。それなので我々も気をつけなければならないのは、そういう本質を理解し、自由闊達に意見が出たり、行動できたりということを大切にしていかなければならないと思っています。特に子どもにおいては、個性にもなっているのだと思いますので、大人が早いうちにつぶさないようにしなければならないと思いますし、それを学校の先生は守

ってくれているのだと思います。子どもたちが遊ぶ環境も我々の時代からするとかわいそうと思える時がありますが、その環境の中で生き生きと育っているのかもしれない。

檜山委員

今の子どもたちは、自分たちで遊びを作らず、与えられたものでしか遊んでいないように思います。自分たちが子どものころは、何か新しい遊びを考えて、その場に応じてルールを変えていました。そういったところでは、与えられたものをうまく使う力は身につくと思いますが、考える力が育ちにくいとため、新しいものを生み出すいわゆる創造力が弱くなっているように思います。

伊藤委員

学び合うということがすごく必要だと思っていて、今はゲームで遊んだり、一人で遊んだりが多いと思いますが、学び合うとか触れ合うという中で個性は生まれてくるものだと思います。できれば学校でも学び合って、ぶつかりあってという場をたくさん作ってあげてほしいと思います。孫を持つ身としては、昔はよかったという思いがすごくあって、上手に工夫はしているのしょうけれども、学び合いぶつかりあってということをしていただけたくさん経験してもらいたいと思います。

小野委員

今は、極端に退屈に耐えることが弱くなっていて、すぐに動画を見れば好きなものが見られる環境になっていますが、昔は見たいテレビ番組が放送されるのを待っていたように思います。

伊藤委員

最近では、少しでも子どもが泣いていると静かにさせたいために、お母さんが携帯電話を預けるという場面をよく見ます。本当はそこでおもちゃを預けて遊ばせたほうが良いと思うのですが、簡単に携帯電話を預けてしまうのを見ると、そのお子さんたちも大人になったときにきっと同じようになっていくのかなと思ってしまい、寂しい感じもします。

佐藤市長

おそらくそうなるのかもしれないですね。昔の時代に逆戻りはしたくないと思うので、おもちゃよりも携帯電話になってしまうのだと思います。ファミリーレストランなどでは、家族4人で座っていても全員がそれぞれ携帯電話を見ていて、誰も話もしないで、料理が来ると黙々と食べて帰るという光景を目にしますが、そういう時代なのかもしれません。

伊藤委員

1人1台端末の使い方について、先生方も授業の中で相当苦労され、工夫されており、会話を大切にしながら、端末を使わせているのを見ています。放課後児童クラブに子どもたちが来ると、みんなすごいスピードで端末を開いて使っているの感心するのですが、使い方ひとつで、良い方にも残念な方にもなってしまうのではないかと思います。

大森委員

小野委員の課題解決型リーダーから価値創造型リーダーへというところ

で、今、学校現場では一生懸命課題解決型というところでやっていて、その先に価値創造が来ると思うのですが、その準備を始めなければいけないのかなと改めて考えさせられ、すごく衝撃を受けました。社会の要請に応じて学校現場も進んでいるので、おそらく今後そのようになっていくのかもしれない。

佐藤市長

伊藤委員から話のありました伝統という関係では、宮まつりを2年間も実施していないため、やり方を覚えている人がいないのではないかという話がありました。8月の祭りが終わった後に次の年の準備を行ってきたので、今年こそやらないとやり方を知っている人がいなくなってしまうのではないかと心配しています。そのほか、ジャパンカップなども開催できていません。なるべく子どもたちには、生で本物を見てもらいたいと思っています。宇都宮ではジャパンカップや3×3など、世界の人たちが集まり、世界一の力を見ることができるので、それは子どもたちに見せてあげたいと思っています。5月17日のプロ野球のジャイアンツ戦の誘致は、子どもたちに本物を見せてあげたいと思って、お願いにあがったところです。

伊藤委員

継続という話ですと、学校現場では今PTAなどの活動がない中で、文化祭などの学校行事を経験した人が卒業してしまうので、新しく役員になった人たちは何をやっていいかわからないという状況が出てきており、その人たちがそのまま次の人に引き継いでしまっているのかといった課題が出ています。そのようなことは地域協議会などの現場でも起きていて、これからの在り方を考えなければならない状況であるようです。

佐藤市長

沢山のご意見をいただきありがとうございました。まだまだ皆様からご意見をいただきたいところですが、時間の関係上、ここで議題に係る意見交換は終了したいと思います。基本方針につきましては、本日の意見を踏まえまして、教育委員会で策定していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(4) その他

佐藤市長

次に「その他」になりますが、教育委員会の皆様から何かございますか。それでは、以上で会議を終了し、進行を事務局に戻します。

(5) 閉会

青木教育次長

市長、ありがとうございました。
以上で、令和3年度第2回宇都宮市総合教育会議を閉会いたします。
ありがとうございました。